

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	1-2-3	1-1-1	事業名	放課後子どもプランの推進			
担当	子ども未来局子ども育成部子ども企画課 鷲頭 211-2982						
全体計画							
事業内容	平成19年度に国が創設した「放課後子どもプラン」を受け、将来的にはすべての小学校区において、既存の施設や事業を効果的かつ効率的に運用しながら、より充実した放課後の居場所をつくるための事業計画(札幌市放課後子どもプラン)を策定する。 また、このプランに基づき、教育委員会等関係機関と連携を図りながら、小学校区ごとに放課後の居場所を確保する取組及び児童会館などの事業内容をより良くするための取組等を実施していく。			<年度別の事業内容>			
				【平成19年度】事業計画の策定 【平成20年度以降】事業計画に基づく事業の実施 ハード面については、主に「ミニ児童会館の新設」事業により対応するが、事業計画には盛り込む予定			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	事業計画(案)の作成 教育委員会と連携して、「札幌市放課後子どもプラン(案)」をまとめ、札幌市放課後子どもプラン推進委員会(札幌市次世代育成支援対策推進協議会)委員から意見聴取を行った。 また、プラン案をより良いものとするため、広く市民意見を聴取するためのパブリックコメント手続を実施した。 ミニ児童会館整備の優先順位が低い小学校区における放課後の居場所づくりの一つとして、「放課後子ども教室事業(モデル事業)」の20年度実施に向け取組を行った。			事業計画の策定 「札幌市放課後子どもプラン(案)」のパブリックコメント手続を実施した後、「札幌市放課後子どもプラン」を策定する。 放課後の居場所を確保する取組 「ミニ児童会館の新設」事業により対応するほか、児童数が少なく、ミニ児童会館整備の優先順位が低い藤の沢小学校において、放課後子ども教室モデル事業を実施し、その実施状況を検証していく。 児童会館等の事業内容をより良くするための取組 学習支援の充実を図る取組として、小学校教員によるプロジェクトを設置し、遊びの要素を取り入れた学びを提供できるよう指導者向けの「(仮称)学習レシビ」を作成する。また、自主的に学習しやすい環境づくりのため、学習図書を購入し、「(仮称)学習レシビ」とともに各児童会館・ミニ児童会館に配布し、順次活用していく。			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
放課後子どもプラン事業計画の策定		-	検討	策定	事業推進	事業推進	策定 (19年度)
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
市民との連携、市民参加 「札幌市放課後子どもプラン」の策定において、パブリックコメント手続を実施し、広く市民意見の聴取を行った。							
企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	1-2-3	1-1-1		事業名	放課後子どもプランの推進	
評価(成果)				課題		
<p>平成19年度には、教育委員会と連携して「札幌市放課後子どもプラン(案)」をまとめ、広く市民意見等を聴取するため、パブリックコメント手続を実施した。パブリックコメントには、236件の市民意見が寄せられ、放課後の子どもの居場所に対する関心の高さが示された。</p> <p>今後、プラン等に対するさまざまな意見を広く紹介するとともに「札幌市放課後子どもプラン」(確定版)を公表する。</p> <p>ミニ児童会館整備の優先順位が低い小学校区における放課後の居場所づくりの一つとして、「放課後子ども教室事業(モデル事業)」を藤の沢小学校で実施するため、開設に向け取り組んだ。平成20年4月に開設し、利用児童や保護者に好評を得ている。</p>				<p>将来的にすべての小学校区に放課後の居場所を確保するためには、従来の児童会館等の活用やミニ児童会館整備だけではなく、放課後子ども教室事業の実施や地域活動推進事業の活用なども含め、各関係機関、学校、地域及び保護者と連携を図る必要がある。</p> <p>現在、学習支援検討プロジェクトにより作成中の「(仮称)学習レシビ」については、児童会館等において有効に活用するため、今後、活用状況を検証しながら、より有効な活用策を検討していく必要がある。</p>		
今後の事業の予定・方向						
<p>「札幌市放課後子どもプラン」策定後は、「すべての子どもたちが安全で安心に過ごすことができる放課後の居場所づくり」を基本理念とした同プランに基づき、事業を推進していく。</p> <p>放課後の居場所を確保する取組については、既存の児童会館及びミニ児童会館に加え、「ミニ児童会館の新設」事業等で対応していく。余裕教室がないためミニ児童会館整備が困難な小学校区や、児童数が少なくミニ児童会館整備の優先順位が低い小学校区においては、それぞれの地域の状況に応じた柔軟な対応が必要となってくる。なお、「将来的にはすべての小学校区で放課後などの居場所を確保すること」を目標とする。</p> <p>また、児童会館やミニ児童会館の事業内容をより良くするための取組については、子どもたちが地域で健やかに育つための居場所づくりとして、学校や地域、保護者との連携を一層強化するとともに、学習図書の本整備や「(仮称)学習レシビ」の活用などによって学習意欲を高めるような環境づくりに努めていく。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	-	-	-	-	-
	財源内訳	国・道支出金				
		市債				
		その他				
予算	事業費	0	12,849	-	-	12,849
	財源内訳	国・道支出金	0	0		0
		市債	0	0		0
		その他	0	0		0
実績	事業費	0	-	-	-	0
	財源内訳	国・道支出金	0			0
		市債	0			0
		その他	0			0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				-
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
<p>(全体) 事業計画の策定については、平成19年度に予定していたが、年度末からパブリックコメント手続を実施したため、平成20年度の策定となった。</p> <p>[19年度]</p> <p>[20年度]</p>						